



尾前川本流で釣れたヤマメ (提供写真)



尾前川支流で釣れたイワナ (提供写真)

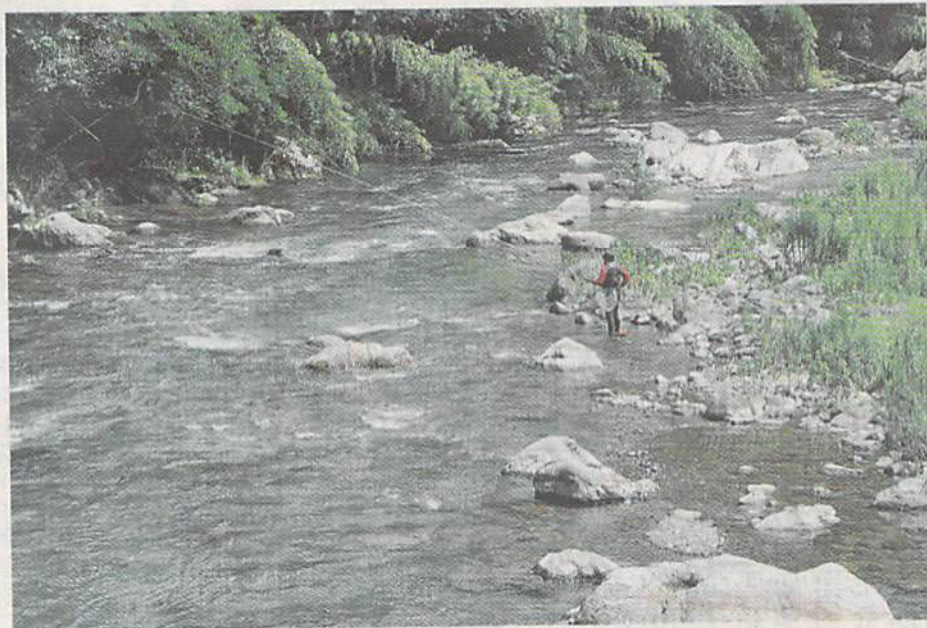
椎葉・耳川上流

ヤマメ名所 イワナ増殖

27.7.11 号日

観光、生態系維持へ駆除

溪流でのヤマメ釣りが人気の椎葉村不土野の耳川上流部で、本州以北を主な生息地としている国内由来の外来種のイワナが繁殖し、地元関係者の頭を悩ませている。イワナは水温の低い環境を好むが、適応力を高めているとみられ、下流へと生息域も広がっている。地元漁協は「ヤマメ釣りは村の観光の目玉なのに、イワナが増えるとファンが離れてしまう。生態系も脅かされる」と、駆除に乗り出している。



ヤマメ釣りを楽しめる耳川上流 椎葉村不土野

椎葉村漁協(尾前好美組合長)などによると、イワナは日向椎葉湖に流れ込む尾前川と不土野川の支流の一部で、十数年前から釣れるようになった。一部の釣り客が稚魚や卵をひそかに放流した可能性が高いという。生息域はだんだん下流へと広がり、最近では尾前川本流でも泳いでいることがある。

主に溪流釣り客向けに約40年前から民宿を営む尾前敏行さん(80)は「尾前川は九州有数のヤマメ釣りの名所として釣り客を引きつけてきた。減れば観光への影響は大きい」と困り顔。同村で約20年前から釣りを楽しむ北九州市の男性(46)も「ヤマメがたくさん釣れるのが椎葉の魅力。イワナがいると楽しみが半減する」と話す。

同漁協は、生息が確認されている尾前川支流1カ所で2012年から駆除を開始。毎年秋に釣り客数人に依頼し、数十匹を釣り上げている。尾前組合長は「ヤマメを駆逐するほど繁殖力はなさそうだが、完全な駆除は難しい」と厳しい表情。不土野川支流でも組合役員を中心に年に数回

駆除している。

また、日向椎葉湖では昨年科の魚食魚であるハスの繁殖問題も発生。ハスはヤマメの餌であるワカサギを捕食するため、湖に下ったヤマメがサクラマスに成長するための餌が少なくなるという。

このため、同漁協はイワナとハス、それに数十年前から湖で生息している国外由来のブルーギルの3種について今年6月から、持ち込むと1匹50円で引き取っている。「釣った外来種はリリースせずを持ち帰るか、漁協へ連絡し持ってきてほしい」と呼び掛けている。

ズーム

ヤマメとイワナ 同じサケ

科で、いずれも山間部の溪流に分布。全長30センチになるが、イワナの方が食欲旺盛で成長が早いとされる。同じ川に両種が生息する場合、上流部は冷水を好むイワナが占有し、下流の水温がある程度高くなった地点からヤマメが多くなるすみ分けが起こる。